

1 学期「リカレント研修」の総括

大分大学教育学部附属幼稚園 園長 石川照代

1. はじめに

附属幼稚園のストロングポイントの一つは、本園や本園職員は外部の視線や注目、時には批評に堪える力をもっている、つまり実習生や研修生を受入れ「保育」を見られることに慣れているという点である。これは、他園ではなかなかできないことではないだろうか。しかも、国の幼児教育施策に則った公教育を実現し、保育モデルを示すことを使命としている園である。この強みを最大限に生かし、本園では、大分県の幼児教育界に寄与・貢献する一方策として、今年度「リカレント研修」を提案し、研修生を受け入れることにした。以下に1学期の研修を総括し、二学期の研修をブラッシュアップしたい。

2. 参加者について

若年層、若しくは経験年数の浅い教職員の申し込みを想定していた。昨年度の本園独自調査から、経験年数10年未満の教職員の実に97%が悩みや困りを抱えていることを掴んでいたからである。しかし実際は、30代や40代の希望者もいて、年代それぞれに課題はあり、リカレントへのニーズがあるということがわかった。

また、所属園としては、こども園からの希望者が多かった。これは、今後本園の期待されるモデル園としてのあり方を考える上でポイントとなると思われる。

17名の申し込み者の年齢や経験年数所属に関する統計は以下の通りである。

	年代別	人数		経験年数別	人数		幼・保・こども	人数
1	20代	10人	1	0～4年	7人	1	認定こども園	12人
2	30代	4人	2	5～9年	6人	2	幼稚園	2人
3	40代	3人	3	10年～	3人	3	保育園	2人
4	50代	0人	4	20年～	1人	4	教育委員会	1人

3. 参加の動機や課題について

想定外であったのは、主任級のベテラン保育教諭や教育委員会の指導主事の希望があったことである。ベテラン保育教諭は、新しい要領・指針の解釈や具現化、人材育成など、園全体を統括・指導する立場からの課題を抱えて来ていた。

また、県や市町村の幼児教育担当の指導主事は、保育現場での経験が無いことから、是非一度保育現場に入りたいというニーズがあった。

更に、保育園からこども園に移行した園では、教育要領の改訂によって、養護としての保育から教育としての保育という視点が明確に加わったことで、どのように教育すればいいのかという技術的な課題を抱えていた。具体的には、「遊びを通した学び」を生み出すため、子どもが主体的に取り組みたくなる遊びの場や環境の工夫・構成の仕方についてであ

る。

また、比較的経験年数の少ない保育士や保育教諭は、子ども同士のいざこざに対する教育的な関わり方や支援の必要な子どもに対する援助の方策など、更に具体的な場面から学びたいと考えていた。

4. 研修後のアンケートより

多くの先生方が、子どもの主体的な姿を生み出す本園教職員の保育スキルの高さを実感し、自らの課題の解決とこれからの幼児教育の根幹を学び取っていただいたようである。アンケートには、以下のような記述が見られた。

- 子ども同士のトラブルで解決することを大事にするのではなく、「どうしたかった？」
「どう言ったらいいかな」など子どもの思いを引き出して、子どもたちに気づかせる
ような声かけをしていた。
- 子どもたち一人一人が考え、話し合いながら遊んでいる姿が多く、それが考える力、
話す力、進める力など子ども主体の保育へ大きくつながって行くことを再確認した。
- 意図的に子どもたちが考えたり、困ったりする必要感が持てるような場もつくること
の大切さなどがわかった。
- すぐに答えを伝えるのではなく、「どうして?」「なんで?」と子どもが考えるように
促していた。
- プラス面を伝えていくことが子どものたちのやる気に繋がっていることがわかった。

5. 総合評価

研修の満足度を示す評価を4段階でお願いしたところ、全員が満点である「4」をつけていただいた。半日研修の方もいたが、全参加者にとって自己課題の解決に役立ったことが伺え、満足度は極めて高いと評価できる。

6. まとめ

本園は、これまでも「モデル園」としての使命を担ってきたが、今、求められているのは、何についての「モデル」であろうか。幼稚園や保育所を区別するような「保育環境」のモデルであろうか。運営上の「組織体制」のモデルであろうか。求められているのはもっと本質的なものについての「モデル」であろう。研修生の感想には「日々の連携がしっかりされているからこそ職員間で共通理解され、先生方も落ち着いており、子どもたちを見守ることができるとうわかった」「職員が気持ちに余裕を持ち、おだやかに過ごしていた」などの記述があった。本園職員集団の連携・協働する姿に触れ、それが子どもと向き合う教職員の心の余裕に繋がっていることにまで気づいて頂いたようである。目で見て感じて学びとして頂ける「リカレント研修」の研修効果は高いと感じた。

これからも「リカレント研修」を通して、保育所、幼稚園、こども園の枠を超え「幼児をどう育てるのか」という幼児教育の本質を示して見せることのできる「モデル園」、子どもと向き合う一人の保育者としてのあり方の「モデル」が示せる園を目指して、精進していきたい。2学期も引き続き、リカレント研修生を受け入れる予定である。